

# 資料8

## 報告

### 諸富・橋津線の試験運行について

～諸富地区における路線バスのルート一部変更～

令和5年6月7日  
佐賀市地域公共交通協議会

# 1 諸富地区の状況

◇人口 9,888人

≪年齢構成≫

年少人口 1,114人 【11.27%】

生産年齢人口 5,300人 【53.60%】

高齢人口 3,474人 【35.13%】

※令和5年3月末時点

◇公共交通空白地域人口

諸富校区人口

10,343人のうち、

公共交通空白地域居住者

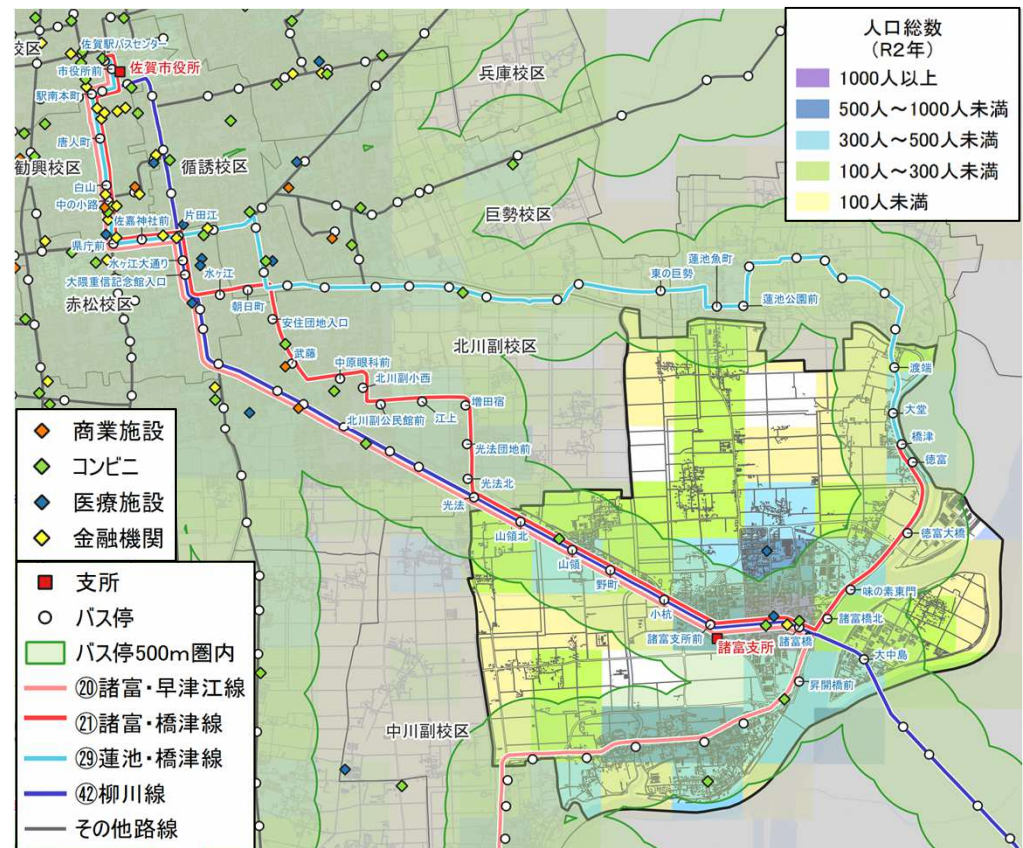
2,361人 【人口の22.82%】

※令和2年国勢調査結果

公共交通空白地域とは

バス停までの直線距離が500m

以上離れている地域



▲ 諸富校区位置図

# 1 諸富地区の状況

## 路線バスの状況

### ◇西鉄バス

○佐賀・柳川線

平日 53便

土日祝日 38便

### ◇市営バス

○諸富・早津江線

平日 42便

土日祝日 37便

○諸富・橋津線

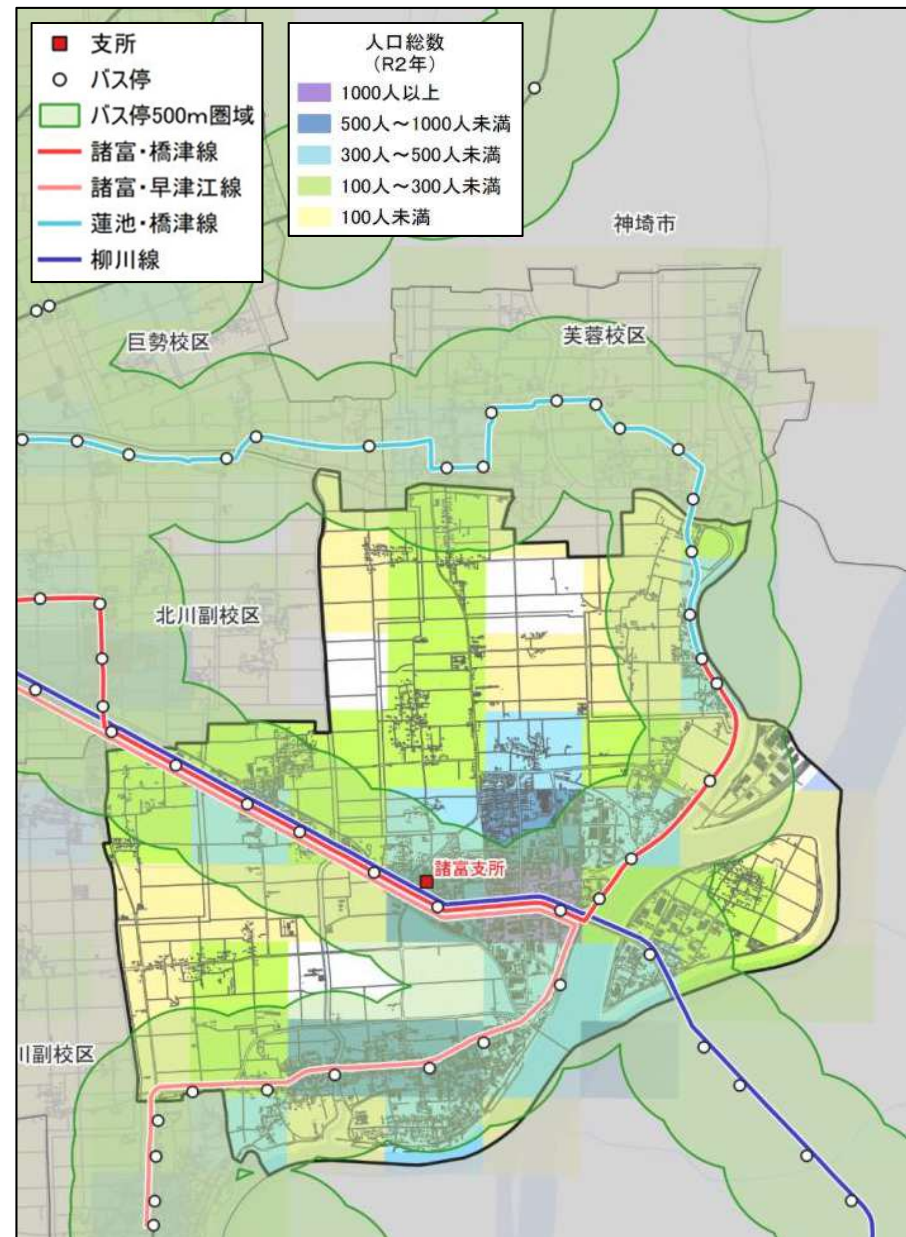
平日 21便

土日祝日 18便

○蓮池・橋津線

平日 47便

土日祝日 40便



## 2 諸富地区における検討状況

### ① 諸富地区住民による検討

#### ●ルート変更の要望（H29.9）

諸富校区自治会長会から市交通局に対して、諸富・橋津線の一部の便のルート変更を要望

#### ●まちづくり協議会で高齢者の外出支援の検討（R2～R3）

福祉施設マイクロバスを活用した輸送の検討

- ・有料での運行ができない
- ・既存の路線バス会社やタクシー会社との調整が困難

→**実施を断念**

#### ●地域内交通活性化モデル地区制度への応募（R4.6）

モデル地区として採択

### ② 諸富地区における地域内公共交通検討会議の設置（R4.6）

委員構成（13名）

自治会、民生委員、老人会

アドバイザー

佐賀大学 五十嵐名誉教授

オブザーバー

佐賀県さが創生推進課

佐賀市交通局

佐賀市諸富支所長

## 2 諸富地区における検討状況

### ③ 諸富地区における地域内公共交通検討会議での協議

#### ●キックオフ会議 令和4年7月19日（火）

- ・モデル地区制度、地域内交通導入の流れについて
- 路線バス（市営バス 諸富・橋津線）のルート変更を検討

#### 【諸富・橋津線の乗降調査】

- ・令和4年9月13日（火）、14日（水）の全便（20便／日）
- ・佐賀駅バスセンター～橋津間を調査
- ・バスの利用状況やルート変更時の影響等を聞き取り調査
- ・ 乗客59人（延べ83人）に聞き取り調査

#### ●第1回会議 令和4年10月31日（月）

- ・諸富・橋津線の乗降調査結果等について
- ・住民アンケートの実施について

#### 【住民アンケート】

- ・令和4年11月に実施
- ・全31自治会のうち、諸富・橋津線沿線の20自治会の住民を対象
- ・現在のバス 利用状況の把握、仮にルートを変更した場合の 需要を把握
- ・ 回答状況：2, 209世帯中1, 089世帯（回答率49.3%）

## 2 諸富地区における検討状況

- 第2回会議 令和5年2月7日（火）
  - ・住民アンケート結果について
  - ・バスルート変更案について
- 第3回会議 令和5年3月23日（木）
  - ・路線バスの収支について
  - ・ルート変更案について
    - 平成29年9月の要望ルートを含めた4つの案の中から、運行距離、公共交通空白地域人口の減少割合、採算性、既存の利用者への影響などの点について検討し、**試験運行ルートを決定**
- 第4回会議 令和5年5月18日（木）
  - ・バス停の位置、試験運行内容について
    - 試験運行ルートに設置する**バス停の位置及び試験運行内容を決定**



【諸富地区における地域内公共交通検討会議の様子】

## 2 諸富地区における検討状況

### ●諸富・橋津線乗降調査結果（抜粋）

調査日：令和4年9月13日（火）、14日（水）の全便  
（午前9便、午後11便）

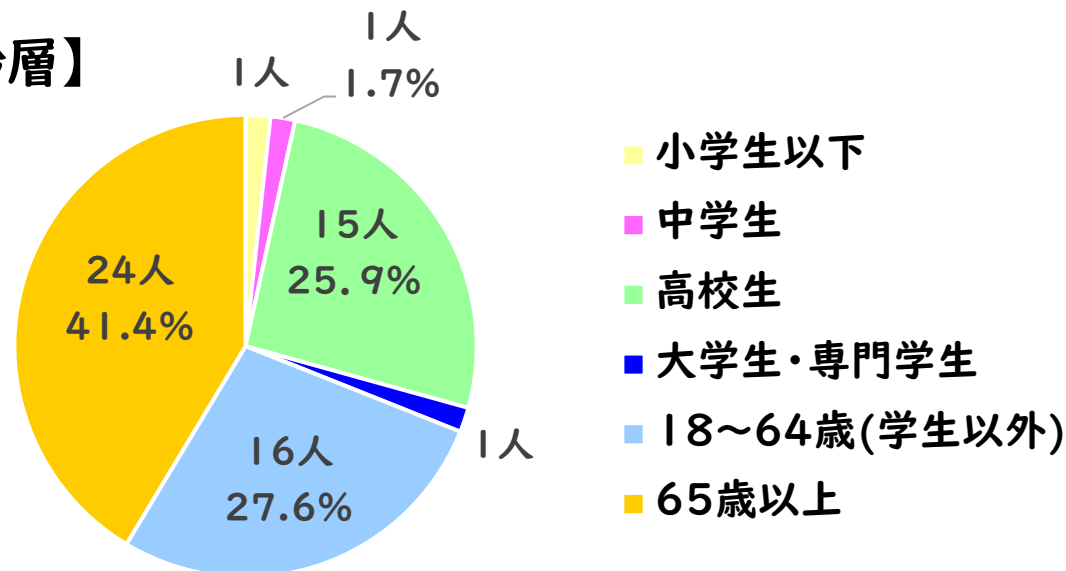
調査区間：山領～橋津（乗込区間は光法北～橋津）

調査目的：バスの利用状況やルート変更時の影響を調べるため。

回答者：59人 回答数：延べ83人分（複数回乗車あり）

#### 【利用者の年齢層】

N=58（実数）



高齢者が4割、学生が3割、大人3割だった。

## 2 諸富地区における検討状況

### ●諸富・橋津線乗降調査結果（抜粋）

#### 【乗降区間】

○他路線との重複区間（光法～諸富橋）については、市営バス諸富・早津江線や西鉄柳川線を利用できる。

※ただし、諸富・橋津線をルート変更した場合、先の2路線のダイヤが合わない可能性がある。

⇒諸富・橋津線のみ運行するバス停の利用実態の把握が重要

○諸富・橋津線のみ運行しているバス停

諸富：「味の素東門」、「諸富橋北」

諸富外：「安住団地入口」～「光法北」

（「徳富大橋」は、ルート変更した場合も停車する可能性が高いため除外）



## 2 諸富地区における検討状況

### ●諸富・橋津線乗降調査結果（抜粋）

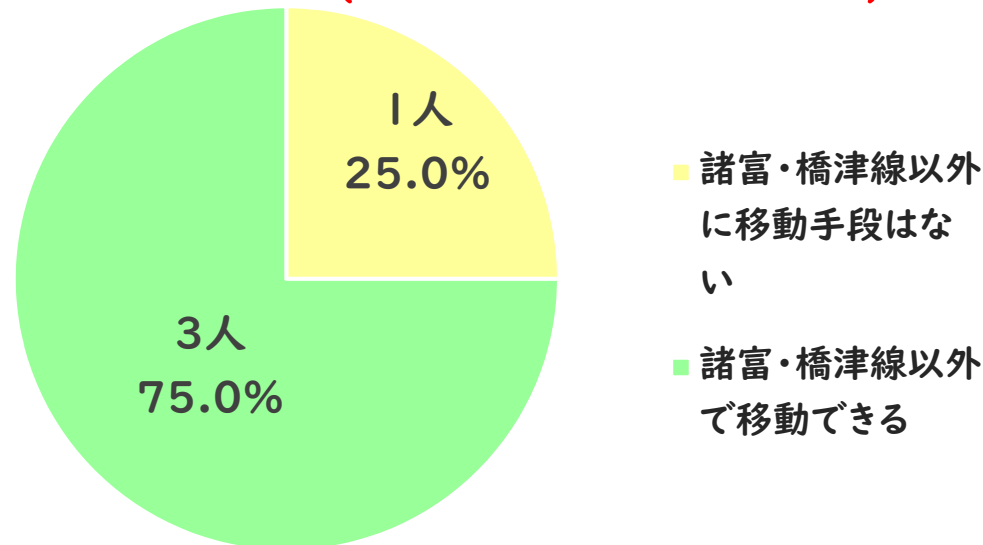
#### 【乗降区間】

- 「味の素東門」、「諸富橋北」を利用した人は、2日間計40便で、実質5人、延べ6人。1便あたり平均0.2人。
  - 調査対象区間（山領～橋津）⇔「安住団地入口」～「光法北」間を利用した人は、2日間40便で実質5人、延べ9人。1便あたり平均0.2人。
- ⇒ルート変更の影響を受けない橋津、徳富などの利用も見られ、ルート変更の影響がでる可能性があるのは、「中原眼科前」～「諸富橋」、「光法北」～「諸富支所」の実質2人のみであった。
- ※小柳記念病院への通院、諸富支所への来庁。

## 2 諸富地区における検討状況

### ● 諸富・橋津線乗降調査結果（抜粋）

【諸富・橋津線以外の移動手段(味の素東門・諸富橋北)】 N=4(実数)



移動手段がある3人は、西鉄柳川線や市営早津江線を使って移動できるとのことだった。

諸富・橋津線が利用できない時は、近隣バス停から他の路線を利用していることがわかる。

また、回答者は徳富一区、徳富二区、諸富に居住しており、バス停の新設位置によっては、引き続き諸富・橋津線を利用できる可能性もある。

移動手段がない：①味の素東門利用、高齢者（通院）、週3～4日利用

移動手段がある：①味の素東門利用、高校1年生（通学）、週5日利用

②味の素東門利用、成人（通勤）、週5日

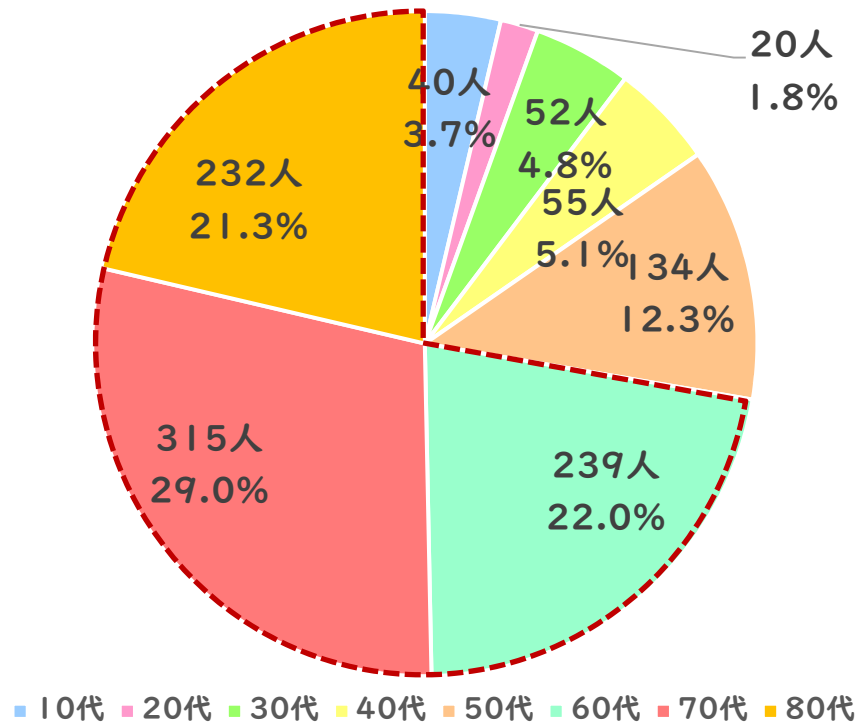
③味の素東門利用、成人、月1～2回利用 ※諸富橋北利用の1人は無回答

## 2 諸富地区における検討状況

### ●住民アンケート結果（抜粋）

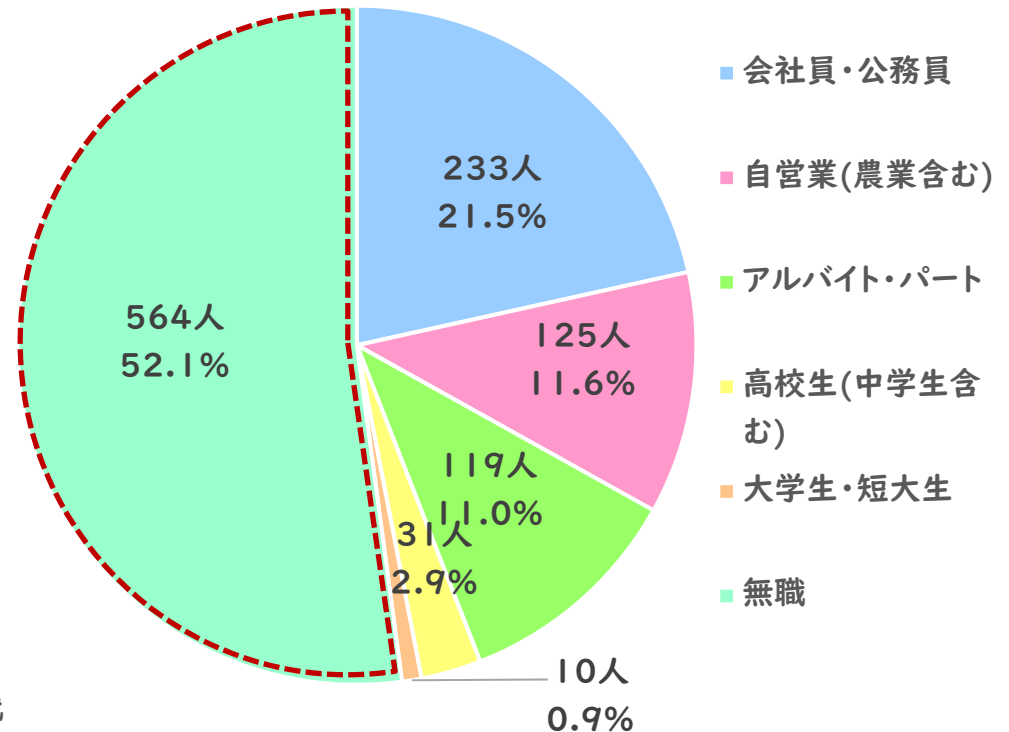
#### 【年齢】

N=1,087(無回答2)



#### 【職業】

N=1,082(無回答7)



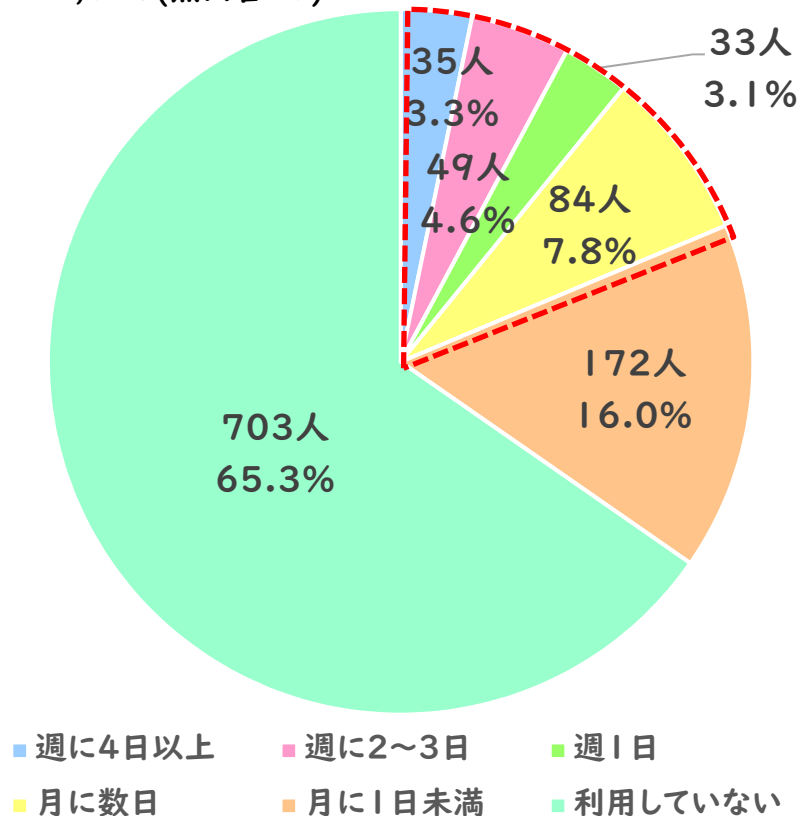
バスが必要な方に回答をお願いしたところ、60代以上の回答が7割以上となった。また、職業は無職の方が約半数となった。

## 2 諸富地区における検討状況

### ●住民アンケート結果（抜粋）

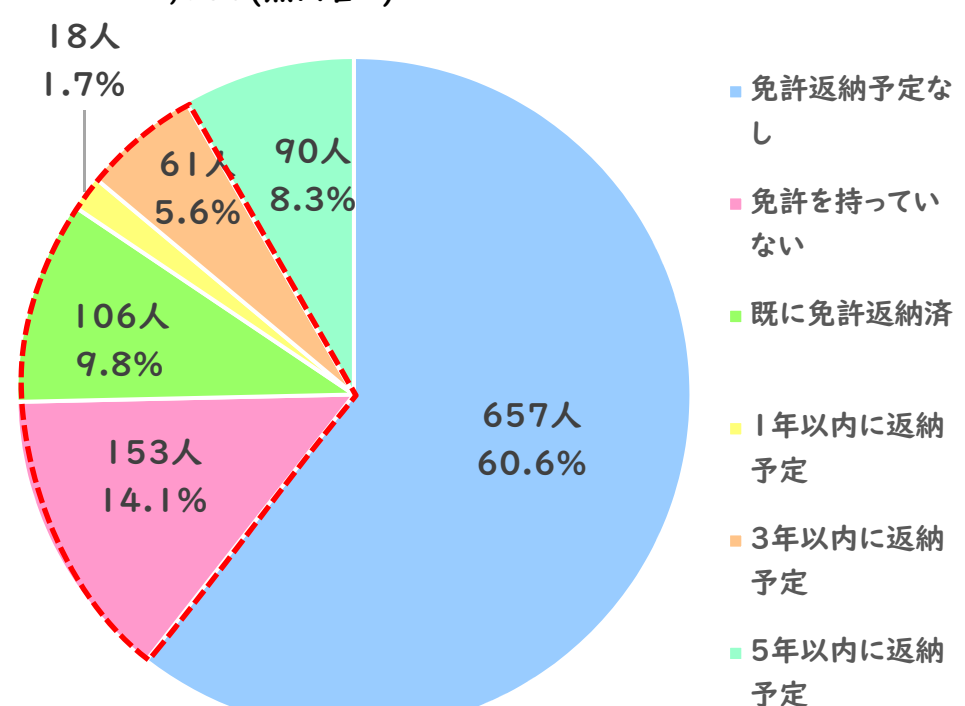
#### 【路線バス3路線の利用頻度】

N=1,076(無回答13)



#### 【運転免許の保有状況】

N=1,085(無回答4)



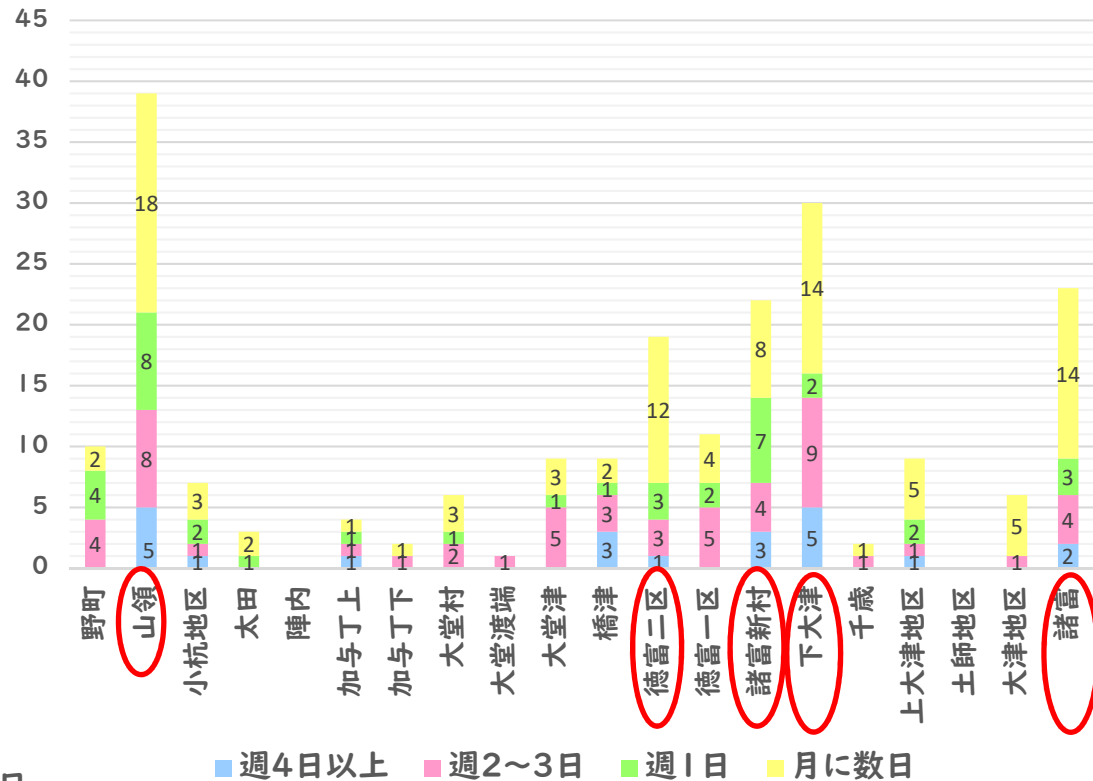
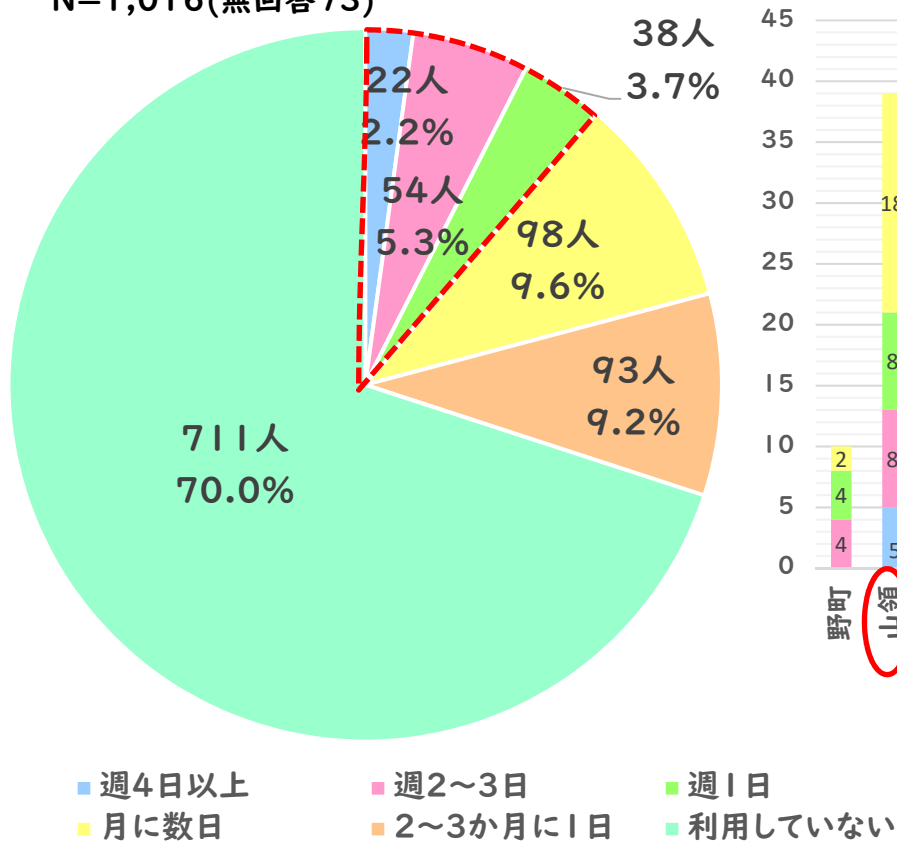
バスを週1日以上利用している方は約1割、月数日以上利用している方は約2割。免許を持っていない・返納済み・3年以内に返納予定の方は約3割。

## 2 諸富地区における検討状況

### ●住民アンケート結果（抜粋） 【諸富・橋津線の利用頻度】

【週4日～月に数日利用するを単位自治会毎に集計】

N=1,016(無回答73)

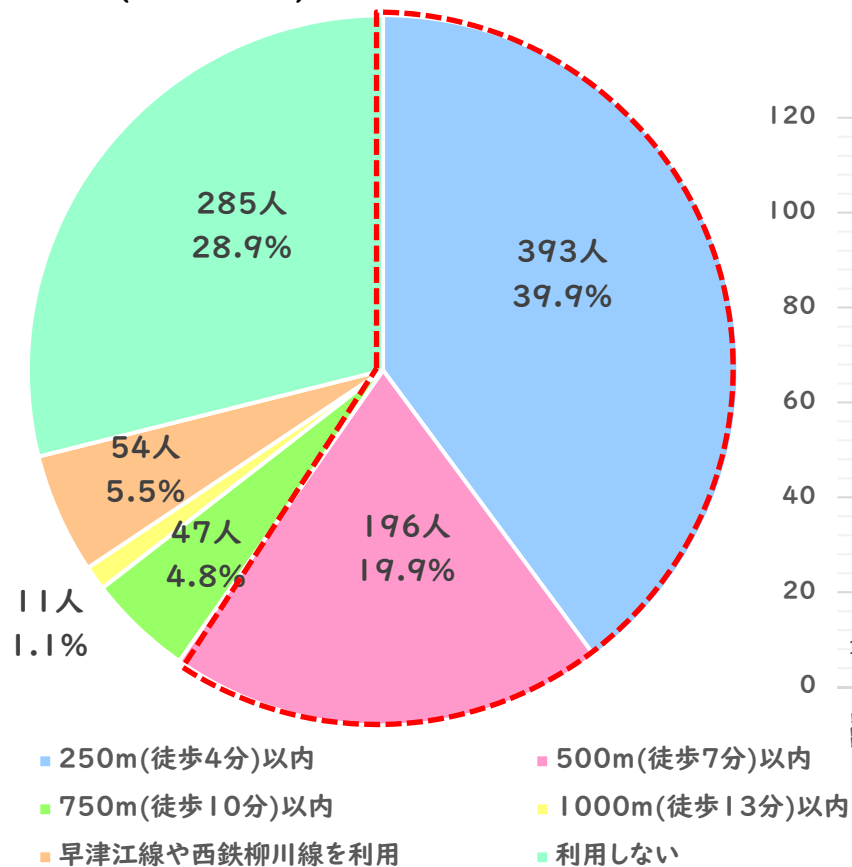


週1日以上諸富・橋津線を利用している方は約1割。  
山領、徳富二区、諸富新村、下大津、諸富の利用が多い。

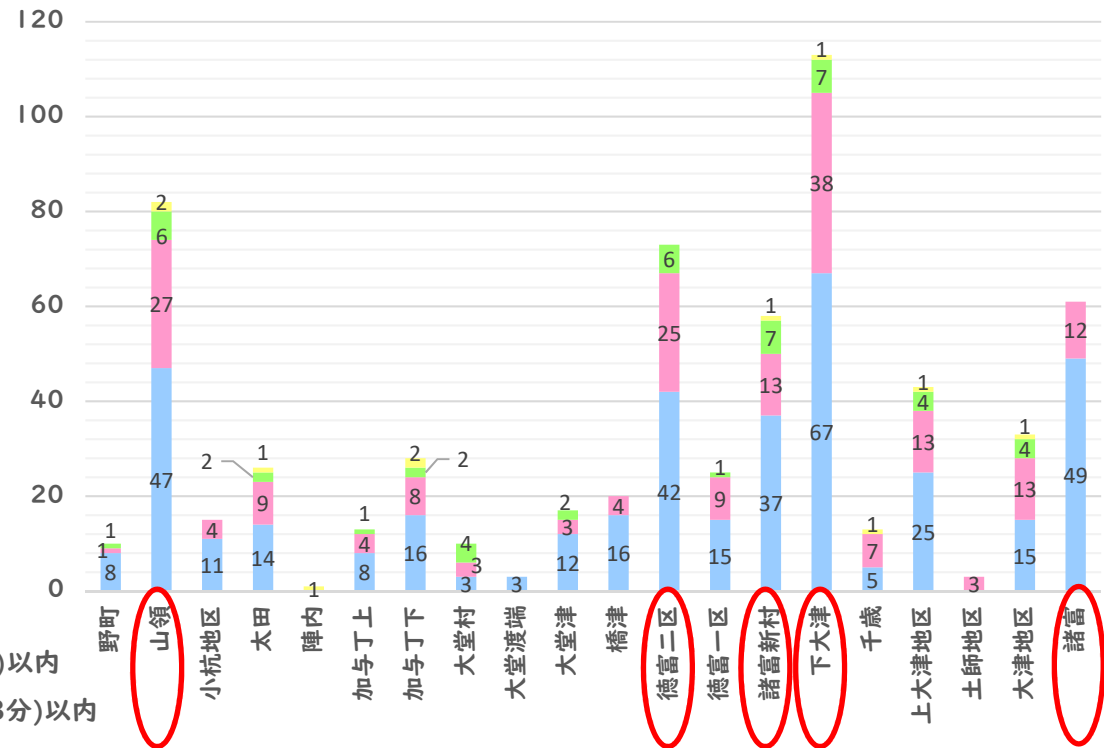
## 2 諸富地区における検討状況

### ●住民アンケート結果（抜粋） 【諸富・橋津線のバス停位置がどれくらいの距離にあると利用するか】

N=986(無回答103)



N=985(無回答104)



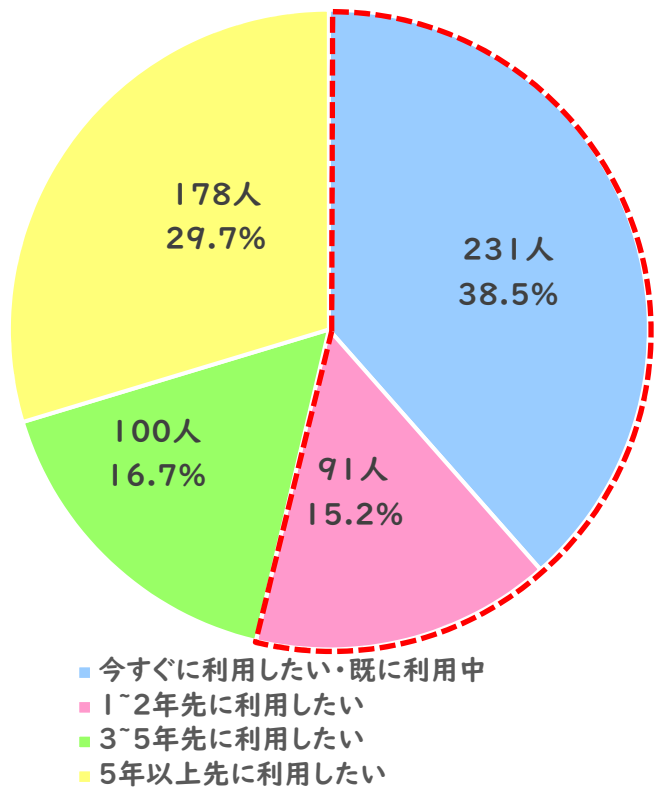
500m以内にバス停があれば利用すると答えた方が多い。現在の利用が多い地区の利用意向が高かったが、特に下大津の利用意向が高かった。

## 2 諸富地区における検討状況

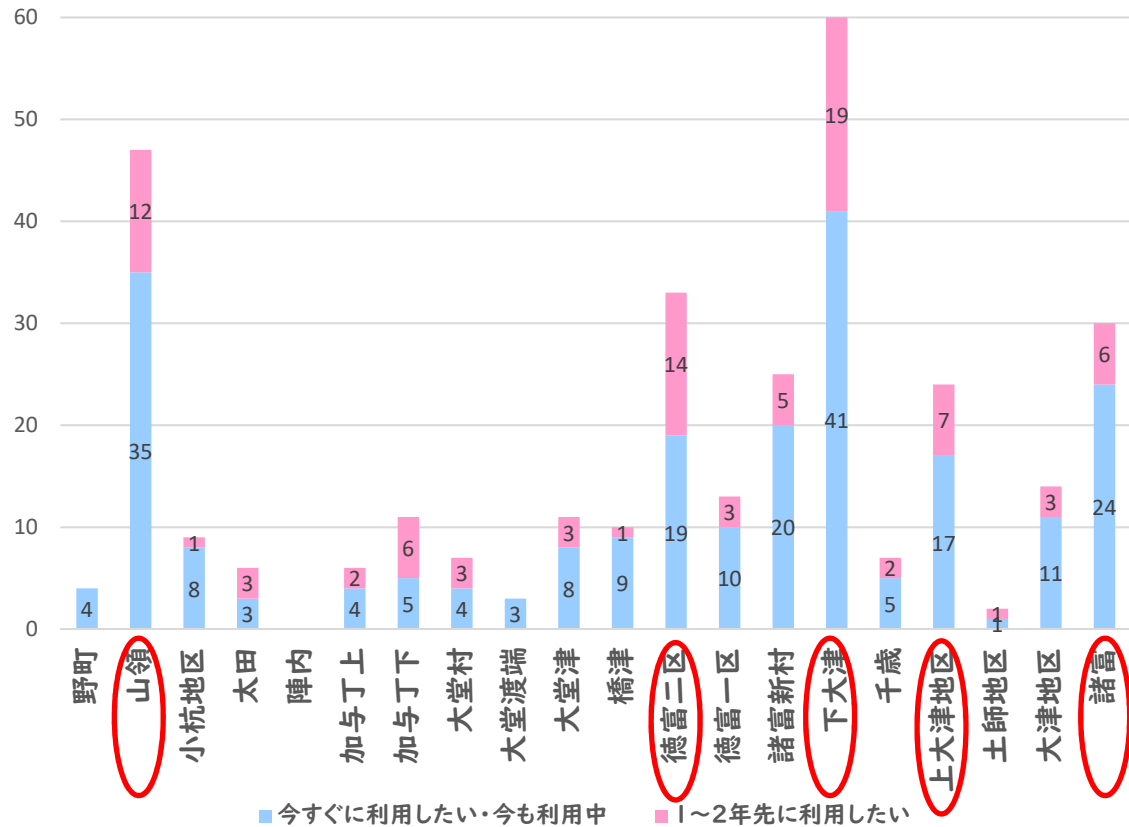
### ●住民アンケート結果（抜粋）

【諸富・橋津線のバス停位置が変わる場合、いつから利用するか】

N=600(無回答47)



N=322



バス停位置が変わった場合、今すぐ利用するのは231人、2年以内に利用するのが91人だった。ここでも、下大津の利用意向が高い。

### 3 諸富地区における検討結果

#### ① 試験運行内容

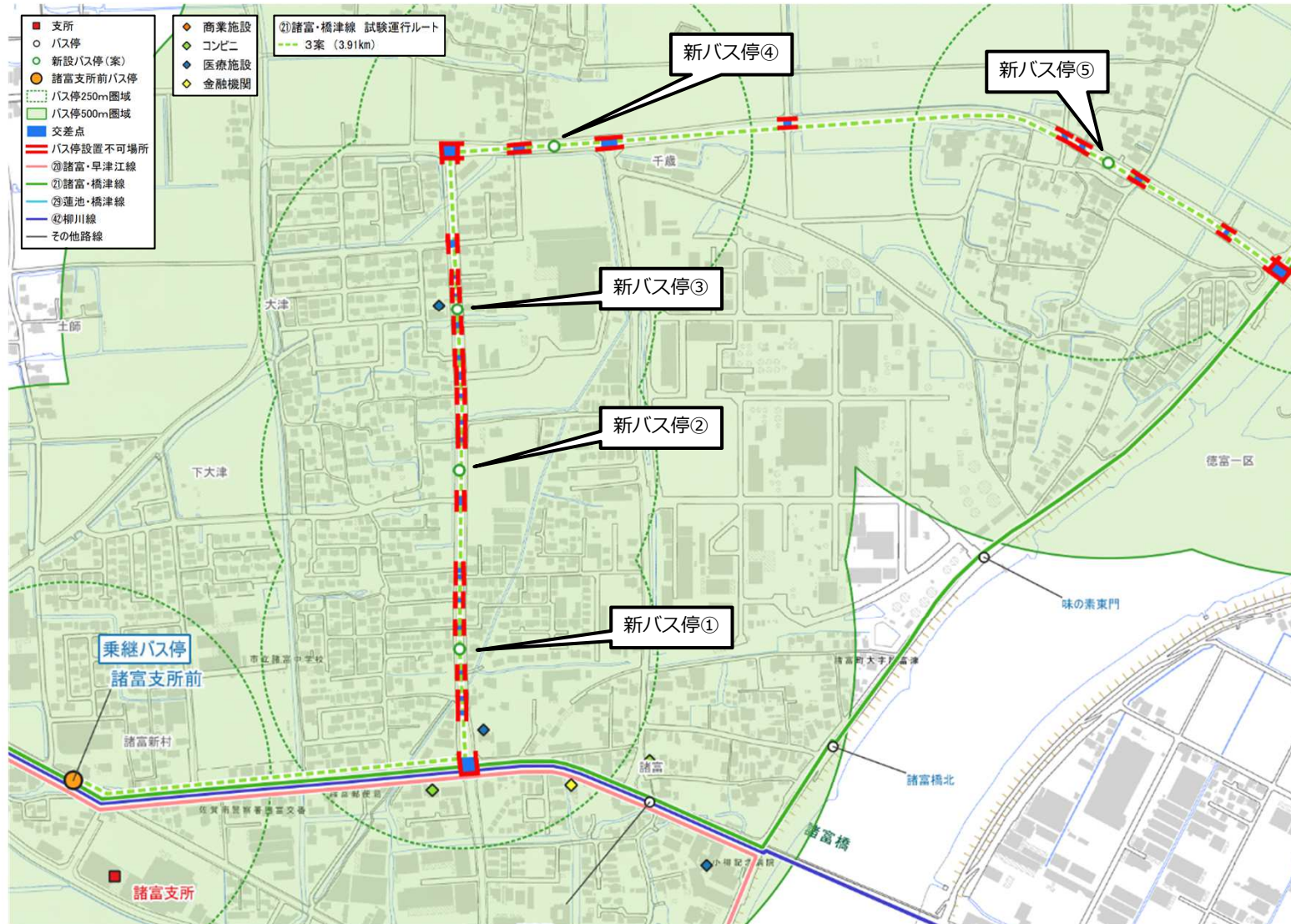
- 運行期間：令和5年9月11日（月）～10月8日（日）※28日間
- 運行区間：橋津～諸富支所前
- 運行方法：既存の諸富・橋津線を通常運行したうえで、試験運行車両を別ルートとして重ねて運行  
ただし、既存路線と競合しないよう、橋津から諸富支所前バス停までを運行（諸富支所前で既存ルートと接続）
- 運行ダイヤ：9時～15時台のみ試験運行ルートで運行  
（1日20便のうち、9便のみ）
- 運賃：無料（既存の諸富・橋津線は有料）
- 使用車両：小型ノンステップバスを使用
- バス停：試験運行区間内に新バス停5カ所設置  
（実際に使用するバス停ポールを設置）





# 3 諸富地区における検討結果

## ② 試験運行ルート



※新バス停の位置及び名称は、地元自治会と協議して決定

### 3 諸富地区における検討結果

#### 【既存の諸富・橋津線のダイヤ】

- 赤枠内の9便を試験運行ルートと接続するように運行

<橋津⇒佐賀駅バスセンター方面>

既存ルート				
橋津	⇒	諸富支所前	⇒	佐賀駅BC
※7:33		7:39		8:16
<b>9:42</b>		<b>9:47</b>		<b>10:19</b>
<b>10:42</b>		<b>10:47</b>		<b>11:19</b>
<b>11:42</b>		<b>11:47</b>		<b>12:19</b>
<b>12:42</b>		<b>12:47</b>		<b>13:19</b>
13:42		13:47		14:19
14:42		14:47		15:19
15:42		15:47		16:19
16:42		16:47		17:19
17:42		17:48		18:22

※平日のみ運行

<佐賀駅バスセンター⇒橋津方面>

既存ルート				
佐賀駅BC	⇒	諸富支所前	⇒	橋津
8:45		9:08		9:18
9:45		10:11		10:22
<b>10:45</b>		<b>11:11</b>		<b>11:22</b>
<b>11:45</b>		<b>12:11</b>		<b>12:22</b>
<b>12:45</b>		<b>13:11</b>		<b>13:22</b>
<b>13:45</b>		<b>14:11</b>		<b>14:22</b>
<b>14:45</b>		<b>15:11</b>		<b>15:22</b>
15:45		16:11		16:22
16:45		17:14		17:25
※18:05		18:37		18:48

※平日のみ運行

### 3 諸富地区における検討結果

#### 【諸富・橋津線の試験運行ルートダイヤ】

- 既存の諸富・橋津線を運行しながらの試験運行となるため、  
諸富支所前バス停で乗り換えることができるようなダイヤを設定

#### 【試験運行ダイヤ】 ※5分程度の待ち時間で乗り換えできるようなダイヤを設定

<橋津⇒佐賀駅バスセンター方面>

試験運行ルート		
橋津	⇒	諸富支所前
9:35		9:42
10:35		10:42
11:35		11:42
12:35		12:42



諸富支所前で  
乗り換え

既存ルート		
諸富支所前	⇒	佐賀駅BC
9:47		10:19
10:47		11:19
11:47		12:19
12:47		13:19

<佐賀駅バスセンター⇒橋津方面>

既存ルート		
佐賀駅BC	⇒	諸富支所前
10:45		11:11
11:45		12:11
12:45		13:11
13:45		14:11
14:45		15:11



諸富支所前で  
乗り換え

試験運行ルート		
諸富支所前	⇒	橋津
11:16		11:23
12:16		12:23
13:16		13:23
14:16		14:23
15:16		15:23

※既存ルートが運行遅延した場合、試験運行ルートは既存ルートの到着を待ってから出発

## 3 諸富地区における検討結果

### ③ 試験運行の効果検証

- 諸富・橋津線の運行経路の変更の基本方針  
「より多くの住民にサービスを提供」及び「運営改善」
- 試験運行の目的  
利便性向上や運営改善の効果の検証

#### 利便性に関する検証

住民アンケート

対象地域：ルート変更の沿線地域自治会  
徳富一区、徳富二区、千歳、上大津、  
大津、下大津

把握項目:

- 利用実績
- 利用者向け
  - ・ 満足度
  - ・ 今後の利用意向
  - ・ 改善要望
- 未利用者向け
  - ・ 利用しなかった理由

#### 運営に関する検証

運行経路区間の利用実績・運営実績

対象バス停:

新設バス停①～⑤、味の素東門、  
諸富橋北、諸富橋

計測項目:

- 各バス停の便別の乗車数・降車数
- 当該区間の運行経費、運賃収入



### 3 諸富地区における検討結果

#### ④ 目標値の設定

- 「公共交通空白地域等における地域内交通の導入ガイドライン」において、定時定路線の目標を 1往復2人（1便1人） と定めている。  
→ 試験運行区間において**1往復2人（1便1人）以上の利用**を目指す。

効果検証として、住民の利便性に対する評価を把握するものの、本格運行に移行するかの判断については、路線の維持を重視し、利用実績等を基に**総合的に判断する。**

#### ⑤ 利用促進の取組

- ワンコインシルバーパスの購入促進（諸富支所以外での出張販売）
- 試験運行周知チラシの作成・配布
- 自治会や公民館等の行事やイベントをバスの時間にあわせて開催
- 検討会議委員によるクチコミ

